

CBI/JSBi 2011 合同大会 完了報告

はじめに

今年の大会は、神戸市中央区港島中町の神戸国際会議場で、11月8日—10日の間、予定どおりに開催された。これについて以下報告する。

この大会の特徴

本大会は CBI 学会と JSBi が初めて合同で開催する年会となった。また、CBI 学会としては初めての関西地区での年会であり、特に、開催地がスーパーコンピュータ「京」や理研、製薬企業研究所等のある神戸ポートアイランドという医療産業都市であるということもあって、医療・創薬・バイオへの計算科学の応用ということをメインテーマの一つに掲げた。

講演と発表

本大会では、3つの基調講演、3つの特別講演、5つのスポンサードセッション、7つの口頭発表セッション、160のポスター発表（内訳、CBIが95、JSBiが65）、3つのランチョンセミナーと、23社の企業展示が行われた。参加者総数は626名、招待講演者とそれに準ずる発言者の数は、37名、大会関係者を含めたその他の参加者は、589名、うち有料参加者は、352名、神戸市民講座参加者、56名、スポンサー関係者106名だった。

セッションは基調講演、特別講演以外は、3会場で平行に行われた。メイン会場では基調講演、招待講演、特別講演を行い、サブ会場1ではJSBi英語セッション、サブ会場2では企業あるいは研究機関によるスポンサードセッションを行った。1日目の基調講演では平尾公彦先生、Thom Dunning 先生による日米のハイパフォーマンス・コンピューティングの最前線の紹介、2日目の基調講演では大谷光昭先生、Thierry Langer 先生による創薬の最前線の紹介、および、Ross King 先生によるロボット科学者という萌芽分野の紹介をしていただいた。また、両学会に長年ご貢献いただいた後藤修先生、金久實先生、神沼二真先生の特別講演セッションを設け、ご講演後、記念品を贈呈した。

基調講演、特別講演、招待講演、口頭発表、スポンサードセッションなどいずれの講演も多く参加者を集めた。ポスター発表も多く参加者を集め熱心な討論が行われた。よって、講演と発表はそれぞれの領域の研究者の関心を惹く、満足すべきものであるという印象を与えた。

その他の行事

神戸市にアレンジしていただき、「京」ならびに「医療産業都市」の2つの見学ツアーを

開催した。また、市民講座「健康をささえるスパコン「京」!!」を開催し、56名の市民の皆様に参加いただいた。

各学会の行事として、CBI 総会、JSBi 総会、JSBi 評議員会、CBIJ 編集委員会、CBI ポスター賞選考会、JSBi ベストポスター選考会が開催され、来年度の合同開催に向けた2012年大会準備委員会も開催された。空いている時間は小会議室を開放し、インフォーマルミーティング等に利用していただいた。

大会2日目18時からのバンケットには約180名の参加者があり、皆様に楽しくご歓談いただいた。また、会場内で朝食セットやコーヒー等ドリンクも適宜サーブし、好評を得た。

財務

実行委員らの尽力により出展企業数が伸びた。

まとめ

数多くの参加者および企業出展を集めることができ、実際にもほとんどのセッションにおいて多くの参加者を得て熱心な議論が行われた。よって、両学会やその他の参加者の皆様に和やかに交流していただくという当初の目的は十分以上に果たすことができ、合同大会として大きな成功を収めたと判断できる。

CBI 学会 2011 年大会実行委員長

田中 成典 (神戸大学)

2011 年日本バイオインフォマティクス学会年会長

阿久津 達也 (京都大学)